

◆医療・福祉マネジメント専攻 修士課程

□演習科目(専門科目)

科目名	専門演習Ⅱ	4単位
担当者	<b>【社会福祉領域】</b> 大谷京子、後藤澄江、末盛慶、山口みほ <b>【医療福祉サービス領域】</b> 篠田道子、中島民恵子、横山由香里、渡辺崇史 <b>【医療・介護・福祉経営領域】</b> 橋口徹、山上俊彦(非常勤教員)、柳在相、綿祐二	
テーマ	各領域のスペシフィックな力を高め、修士学位請求論文を計画的に執筆する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  <b>【社会福祉領域】</b> 社会福祉実践、研究方法、論文構成  <b>【医療福祉サービス領域】</b> 多職種連携教育、研究計画書、論文草稿  <b>【医療・介護・福祉経営領域】</b> 医療福祉経営、研究枠組み、研究方法、論文構成</p> <p>&lt;学習目標・内容の要約&gt;  <b>【社会福祉領域】</b>          ・社会福祉に関する有意義なテーマを設定・研究し、論文を作成できる。  <b>【医療福祉サービス領域】</b>          ・医療福祉サービスに関する有意義なテーマを設定・研究し、論文を作成できる。  <b>【医療・介護・福祉経営領域】</b>          ・医療福祉経営に関する有意義なテーマを設定・研究し、論文を作成できる。          ・自らの考えを明確かつ論理的に組み立てて他社に説明し、意見交換できる。</p> <p><b>専門演習Ⅱ</b>          社会福祉領域、医療福祉サービス領域および医療福祉経営領域を選択した2年生を対象に、演習Ⅰでのスーパービジョンやフィールドワークなどを通じて養成されたジェネリックな力を踏まえ、各領域のスペシフィックな力を高めることをねらいとする。修士学位請求論文の提出に向けた研究計画書や論文草稿の添削指導、各種の研究発表会における発表と質疑、運営などを含めた演習形式の授業を行う。</p> <p><b>【社会福祉領域】 テーマ:「ソーシャルワークの視点と研究の進め方の理解」</b>          超高齢社会に対応する多様な分野での社会福祉実践を、ケースワークとコミュニティワークの両面から、理論的・実証的に研究する。具体的には、福祉・医療・医療の連携による社会福祉実践やスーパービジョン、社会福祉専門職の専門性、高齢者介護と子育てを包括するコミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって新しいソーシャルワークのあり方を追究する。</p> <p><b>【医療福祉サービス領域】 テーマ:「保健医療福祉サービスのマネジメント」</b>          保健医療福祉サービスのマネジメントについて、政策から臨床レベル、予防から終末期までの幅広い領域を扱う。保健医療福祉の政策動向や、地域包括ケアシステムと多職種連携に着目しつつ、医療機関や高齢者・障害者施設等の事業所マネジメント、ソーシャルキャピタルと健康社会、認知症ケア、広義のリハビリテーション、困難な課題を抱える人への地域マネジメントを理論的・実証的に研究する。</p> <p><b>【医療・介護・福祉経営領域】 テーマ:「医療福祉マネジメントの研究方法与研究計画Ⅱ」</b>          医療福祉組織におけるマネジメントに関して、演習形式で専門的に研究することを目的とする。同じ領域を学ぶ院生が、定期的に顔を合わせる機会を提供することで、互いに研究の進捗状況を報告し合い、情報交換ができるグループ学習と共同研究のための小集団を形成することも目的とする。修士学位請求論文の提出に向けた研究計画書や論文草稿の添削指導、各種の研究発表会における発表と質疑などを含めた演習形式の授業を行う。</p>	
授業の進め方	別紙参照	
事前学習の内容 学習上の注意	<p><b>【社会福祉領域】</b>          ・次回授業に向けて担当教員から提出された課題についてレジュメを作成・人数分を準備する。          ・各自が各回の指導ノートを作成・持参して振り返りをする。</p> <p><b>【医療福祉サービス領域】</b>          ・研究計画書や草稿論文の添削指導を月1回実施する。そのため、定められた期日までに、研究計画書や草稿論文を提出すること。          ・演習形式で授業を進めるため、与えられた課題についてグループまたは個人で事前に調べること。</p> <p><b>【医療・介護・福祉経営領域】</b>          ・研究計画書等の添削指導等を実施する予定なので、定められた期日までに研究計画書等の草稿を提出すること。          ・各回の担当教員の指導内容について振り返りを行い、自分の研究に反映する試み・工夫を行うこと。</p>	
本科目の 関連科目	なし	
成績評価 方法と基準	演習でのディスカッションへの参加状況(25%)、添削指導の対象となる研究計画書と小論文(50%)、発表会での口頭発表と質疑での多道う状況(25%)を評価し、担当教員で合議の上、総合的に評価する。全体で60%以上を合格とする。	